

# 和紙 身近に感じて

森林保全に取り組む富山市のNPO法人きんたろう倶楽部（鏡森定信理事長）は本年度、和紙の原料となるコウゾの苗植えから和紙すきまでを学ぶ和紙講座を充実させる。同倶楽部事務局に今春、和紙職人の川原隆邦さん（31）が加わった。職人が一員となったことでより内容を深め、長期的な事業に発展させる。

きんたろう倶楽部は里山再生の一環として、昨年から呉羽丘陵でコウゾの育成を試み、昨年度



昨年植えたコウゾの生育を確認する川原さん（右）と、きんたろう倶楽部の中野康英副理事長

## きんたろう倶楽部 職人迎え講座拡充

して正会員らに配るなどしてきた。川原さんはこれまで朝日町蛭谷を拠点に活動し、講師という立場で講座に関わってきたが、より活動の幅を広げようと4月に富山市に引っ越し。5月から事務局のメンバーとなり、和紙事業を担当している。

講座は本年度、7回に増やす予定で、和紙が出来上がるまでの流れを体験しながら学んでもらう。コウゾの畑の面積も0・6畝から1畝に増やし、新たに和紙の糊料となるトロアオイも育てる。

川原さんは「昔は里山に果樹園があったり、スギやコウゾの林があったりといういろいろな使い方をされ、人の手が入ってバランスが取れていた。和紙講座を通じ、里山の多様性を発信していきたい」と話している。

本年度初回の講座は17日午前10時からで、同市ファミリーパーク近くの畑でコウゾの苗を植える。参加費は500円で会員は無料。申し込みが必要。問い合わせは同倶楽部、電話076（434）1316（平日午前9時～午後5時）。